第 1 回 (2021.4.13)	『大学図書館の魅力と研究活動』 松井啓之教授(経営管理大学院・図書館副機構長)

第 1 回：講義
場　所：学術情報メディアセンター南館 303
出席者：受講者 24 名　演習補助者 3 名
資　料：松井教授講義資料(スライド 40 枚)、学術情報リテラシー教育支援のためのルートマップ(1 枚)

授業の概要 (附属図書館 北村准教授より)

- この授業の目的は、図書館利用を中心とした文献・学術情報検索についてのスキルを獲得し、それを活用してプレゼンテーションやレポートで発表できるようになることである。
- 昨年度はオンライン形式で授業を行った。今年度は対面形式で進めるが、情勢によって変更する可能性がある。

＊＊＊松井教授講義＊＊＊

講義の目的と内容

目　的：高校時代の図書館や公共図書館とは異なる、大学図書館の魅力と研究活動を理解する。
内　容：大学図書館が持つ意義と価値を考える。また図書館資料の概略や特性を理解する。

図書館とはどのような場か

- 「図書館」は明治時代に Library を訳した造語。博物館や公文書館と違い、図書館はすでにラベル付けされたものを収集する。
- 読書の場、貴重な資料と出会う場、静かに思索する場、コミュニケーションの場、最先端の研究成果に出会える場、研究のスキルを知る場など多様な機能を持ちうる。

図書館の歴史

- 図書館の起源は、文化を移設して発展させていくということにある。古代アレクサンドリアの図書館はギリシャの知識を学ぶ場、学び方を学ぶ場として設立された。
- エジプトからパピルスの輸出が止められたことをきっかけに羊皮紙の生産が始まった。
- 写本 1 冊で家が買えるほど非常に高価であったことを背景に、図書館はヨーロッパでは教会の神学資料室として、日本では個人の文庫、藩史編纂所、寺子屋として発展してきた。資料を集めて解釈し、知識を共有する場として始まった。当初は、一部の利用に限られていたが、印刷技術の登場により、公共サービスとしての性格を持つようになった。

様々な形の図書館

- 図書館には様々な形態がある。国立図書館、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館など、サービス対象によって分類することができる。
- 貸本屋はよく利用される図書、つまり人気のある本をおくことが基本となるが、図書館はその図書館に必要だと考えられる図書を司書が選書して所蔵するという違いがある。
- 20 世紀のアメリカでは、大学の役割について、良き市民を育てる場から良き研究者を育てる場へと考えに変化が生じた。
- 世界で最初に大学院を設置したジョンズ・ホプキンス大学において、「図書館は大学の心臓である」という言葉で表されるように、図書館は大学の研究活動の根幹であると捉えられるようになった。
- どうすれば研究を支援できるのか、という課題に対して、ハーバード大学では指定図書制度、コロンビア大学では、開架式書架やレファレンスサービスを始めた。
- 松井教授が実際に訪問したイギリス、アメリカ、オランダの大学図書館や公共図書館が写真付きで紹介された。

図書館の役割の変化

- 1600 年頃に論文が登場した。図書館の提供対象はひろがりつづけている。今後は電子資料も発展するだろう。
- 書物における第一の革命として、印刷技術の登場により、書物が爆発的に流通するようになった。書物の普及は、宗教改革にもつながった。
- 現在は、インターネットの普及により電子的情報が爆発的に増える第二の革命の時代にあり、図書館の役割も大きく変化しつつある。
- 図書館には電子的情報の迅速な収集と発信という役割が求められる。
- 京都大学も、学内だけでなく研究推進のために国内外へサービスを提供している。

京都大学図書館はどのような場所か

- 京都大学図書館機構は、全部で約 50 の図書館・室、所蔵総数は 719 万冊、電子ブックは約 6.7 万冊、約 13,000 種類の雑誌、約 46,000 タイトルの電子ジャーナル、約 19 万件のリポジトリなど、世界でも有数の規模を誇る大学図書館である。
- 大きな図書館は、附属図書館、吉田南総合図書館、桂図書館
- 2020 年 4 月 7 日に桂図書館が新設された。
- 学習室 24、グループ学習室、ラーニングコモンズ、サイレントエリアのように、自学自習、読書、議論と多様な活動ができる空間が用意されている。
- 学習サポートデスクのように、論文・レポートの書き方が学べる場所がある。
- 図書館資料には、電子資料も含まれている。
- 学内に資料がなければ、国内、海外からも取り寄せることができる。

研究活動とは

- 研究活動とは、①研究計画をたて、②計画に基づく研究を進め、③研究成果を発表すること。
- この授業では、研究活動を体験する。不正を行わないためには、先行研究を参照し、そこに自分の新たな知見を加えることが必要である。
- 研究活動で重要になるのが、論文である。世界で最初の論文は 17 世紀にイギリスで出版された。ピアレビューなどの研究形式も確立された。
- 論文が出版されるようになり、研究の先取権が管理・保証されるようになった。
- 査読、学会などにより質を維持している。
- 論文データベースとして Web of Science、Scopus などが代表的。

オープンサイエンス

- 目的①誰もが既存の研究成果にアクセスできる　目的②誰もが担い手となりうる。
- 近年、電子化された論文の価格高騰が問題になっている。アクセスへのハードルが高くなっている。
- この問題への対処法として、論文のオープンアクセス化という取り組みがある。
- オープンアクセスとは、インターネットを通じて論文を誰もが無料で閲覧可能な状態におくことを指す。大学図書館は研究成果のオープンアクセス化において、重要な役割を担う。
- 京都大学は 2015 年 4 月に日本で初めてオープンアクセス方針を制定し、研究成果のオープンアクセス化に努めている。
- 京都大学では、国内の大学で初めて研究データ管理・公開ポリシーを作成した。
- 論文という完成系のみならず、研究で得られたデータもオープンにすることが図書館の役割。

学術資料と大学図書館の今後

- オープンアクセスからさらに進んで、論文だけでない「知の集積」のオープン化(オープンサイエンス)が今の学術情報流通のトレンドになっている。

- 図書館の提供する「知の集積」と Wikipedia などの「集合知」との差別化。
- これまでは、利用よりも保存、アーカイブ、集積を重視した「知の集積」が大学図書館の役割であった。これからは、これからはデジタル化、情報化、オープン化をもとに「知の創造の場」となっていくことが求められる。
- 図書館の役割はアーカイブ+α：研究・学びの場、「研究・学び」を学ぶ場、「研究・学び」を実践する場。
- ラーニングコモンズを図書館に設置することにこだわる必要があるかどうかは疑問である。
- 大学図書館の DX（デジタルトランスフォーメーション）が必然である。
- 新型コロナウイルス対応によって得られた知見を活かし、図書館は変化しなければならない。

まとめ **(附属図書館 北村准教授より)**

- 図書館は動きがないイメージがあるが、そうではない。
- 電子化が大きな流れの一つではあり、新型コロナウイルス対応によってより促進されるだろう。現状、全てが電子資料というわけではない。
- 京都大学は電子媒体も紙媒体も膨大である。利用者の学習や研究にどのように上手く使ってもらうか、が難しい問題。
- Google で検索して終わり、というよりも利用者にスキルがあった方が、環境をより活用できる。

＊＊＊その他 連絡事項＊＊＊

- PandA のテスト・クイズより第 1 回アンケートの記入のお願い。
- 課題は成績に影響するので、必ず提出すること。

(記録：村上 史歩)